allcinema

ある人質　生還までの398日（2019）

SER DU MANEN, DANIEL
DANIEL

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 デンマーク／スウェーデン／ノルウェー
色彩 Color
時間 138分
初公開日 2021/02/19
公開情報 ハピネット
映倫 G

【キャッチコピー】
生きていて！

ＩＳから息子を救出した
家族の奇跡の実話

【解説】
　内戦中のシリアに渡り、イスラム過激派組織ＩＳの人質となってしまった駆け出しのデンマーク人写真家ダニエル・リューの奇跡の生還劇を、「ある愛の風景」「アフター・ウェディング」のアナス・トマス・イェンセンが脚本を手掛け、「ミレニアム　ドラゴン・タトゥーの女」のニールス・アルデン・オプレヴが監督を務めて映画化。ダニエルが体験した地獄の人質生活と、同じく人質となった著名なアメリカ人ジャーナリスト、ジェームズ・フォーリーとの交流、そしてどんなに絶望的な状況でもダニエルの生還を信じて救出に奔走する家族の必死の姿を臨場感あふれる筆致で描き出す。主演は「幸せな男、ペア」のエスベン・スメド。共演にトビー・ケベルと本作の共同監督も務めているアナス・Ｗ・ベアテルセン。
　怪我で体操選手の道を諦めた若者ダニエル・リューは、ずっと夢だった写真家になることを決意し、やがて戦時下の日常を世界に伝えたいと内戦中のシリアに渡る。戦闘地域には近づかないよう注意していた彼だったが、突然男たちに拉致されてしまう。ダニエルが予定通りに帰国しなかったことで異変に気付いた家族は、人質救出の専門家アートゥアに連絡を取る。彼が誘拐犯を突き止め接触を試みると、身代金として70万ドルを要求される。しかし、デンマーク政府の方針は、テロリストとは一切交渉しないというもので、家族は70万ドルという大金を自分たちだけで用意するしかダニエル救出の道はなかったが…。

【クレジット】

監督	ニールス・アルデン・オプレヴ	Niels Arden Oplev	
	アナス・Ｗ・ベアテルセン	Anders W. Berthelsen	
原作	プク・ダムスゴー	Puk Damsgard	『ISの人質　13カ月の拘束、そして生還』（光文社新書刊）
脚本	アナス・トマス・イェンセン	Anders Thomas Jensen	
撮影	エリック・クレス	Eric Kress	
音楽	ヨハン・セーデルクヴィスト	Johan Soderqvist	
出演	エスベン・スメド	Esben Smed	ダニエル・リュー
	ソフィ・トルプ	Sofie Torp	アニタ
	アナス・Ｗ・ベアテルセン	Anders W. Berthelsen	アートゥア

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

トビー・ケベル	Toby Kebbell	ジェームズ・フォーリー

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.